

第6回電気系高大連携協議会議事録

■日時:2011年11月22日(木)13:30~15:30

■場所:宮崎工業高校

1. 開会行事

進行: 児玉(宮崎工業)

- (1) 開催側代表挨拶
- (2) 自己紹介および出席確認

(工業高校) 敬称略

松本 幸一郎(延岡工), 児玉 鉄夫 大崎 博志(宮崎工), 吉川 哲也(小林秀峰),
新地 貴臣(日南振徳)

(宮崎大学)敬称略

林 則行, 横田 光広, 大坪 昌久, 穂高 一条, 迫田 達也

2. 協議

進行: 児玉(宮崎工業)

①電気電子工学科学科長挨拶 (林)

工学部の改組およびそれによって電気電子工学科がどのように生まれ変わるかについて紹介すると共に、今後とも各高校に協力をお願いしたい旨の挨拶があった。

②宮崎大学工学部の現状報告 (大坪) ……工学部の改組後の学科の特徴とPR

資料(資料①)に沿って、改組の理念、方針の説明があり、少人数教育の重要性についての話があった。また、新しく創設される環境ロボティクス学科についての紹介も行われた。更に、基礎教育センターについても紹介が行われた。

③H23年度以降の推薦入試の状況 (横田) ……平成24年度以降の推薦入試の説明

センター試験を課す・課さない入試、推薦入試の定員について説明があった。また、11月29日の推薦入試の倍率が工学部で1.6倍(去年は1.4倍)であることの紹介が行われた。

④工業高校の現状報告

地域別に、就職、進学割合や就職の地域や進学先等について紹介が行われた。また、国公立大学への進路指導や課外授業についても説明が行われた。この他、下記のような指摘・要望を頂戴した。(今後、検討が必要な項目である。)

・電気システムの推薦枠が5名なので、県内工業高校の数に併せて7名(理想は10名)程度に増やして欲しい旨の要望があった。

・センターを課す入試に関しては、数Ⅰaが受験科目となっているが多くの工業高校が数aは開講していない。例えば宮崎工業は数Ⅰと数Ⅱを開講しているのに、入試科目として数Ⅰで検討して欲しい旨の依頼があった。(電気主任技術者の認定校でもあるので専門の講義を充実せざるを得ない現状に理解を示して欲しい。)

・推薦入試での口頭試問時、多くの工業高校では数Ⅲを履修していない生徒もいるので、数Ⅰ、数Ⅱにして欲しい旨の要望があった。

・高校側から見れば、全体のレベルではなく、数学だけ強化すれば(大学入試合格に関して)チャンスが広がる、高くなるという考え方もでき、改善の必要があるのでとの意見があった。

⑤ 高大連携の必要性と今後考えられる連携事業について

(1) 出前講義の更なる充実 (時間数や容易な申込方法(教員への直接依頼))

・出前講義ではないが、今年は宮崎工業の生徒さん 10 名が研究室の見学にいらした。初の試みであったが、今後も継続していきたい旨の話が林からあり、工業部会の電気系学科を窓口として、林に依頼して欲しいとの提案があった。また、依頼を頂戴した後に、時期や内容を相談すると伝えた。

(2) 会社等で行なわれているインターンシップのようなものを大学でできないか。(迫田)

・今年は実施する方向で考えたく、まずはそのニーズを教えていただきたい旨の話し検討した。その結果、上記(1)の見学会に出席した生徒さんでさらに興味を持った生徒さんがいた場合にインターンシップを検討することとした。ただし、時期については春休みや夏休みということになるので、高校の先生の引率の問題等も含めて実施の可能性については工業高校側でも検討が必要であり、検討をお願いすることとした。

(3) 高大で連携して“ものづくり”ができないか。また、これに関連して大学の研究設備の紹介できないか。

・穂高教員と奥野教員が取り組んでいる追尾型太陽電池発電システムのデモ教材開発についての紹介が資料 2 に沿って行われ、同様の取り組みを広げていきたい旨の提案があった。

(4) 資格取得講座 (迫田)

・今夏行った第2種電気工事士資格取得のための講座について資料 3 に沿って説明が行われた。来年度も開催予定であるので、興味のある生徒さんにぜひ紹介して欲しい旨のアナウンスがあった。

・高校では、第2種電気工事士資格取得のための講座を用意できるとのことで、大学への紹介を検討して頂けるとのことであった。

⑤ その他

・電子物理工学科の推薦入試の倍率が低い理由について何か考えられることはないかご意見を頂戴した。電子系の学科が宮崎県内には少ないので母集団が少ない影響であろうとの回答を頂いた。

・生徒さんを(入試)評価するにあたって有用な資格についてご意見を頂いたところ、ジュニアマイスター制度等の Web を参照することの紹介があった。また、“検定”とつくものについては基本的に難易度が下がる旨の説明があった。

・来年度以降の高大連携の取り組みについて相談し、大学側のスタンスとしては、電気システム工学科は従来どおり参加するが、他の学科については新たな枠組みあるいは関係教員のみが参加する形態であろうことを説明した。また、高校側の要望についても伺いたい旨の希望についても述べた。

3. 閉会の挨拶 進行: 児玉(宮崎工業)